

LIVE REPORT

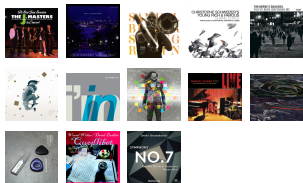
HOME > CONCERT/LIVE REPORT



contact us

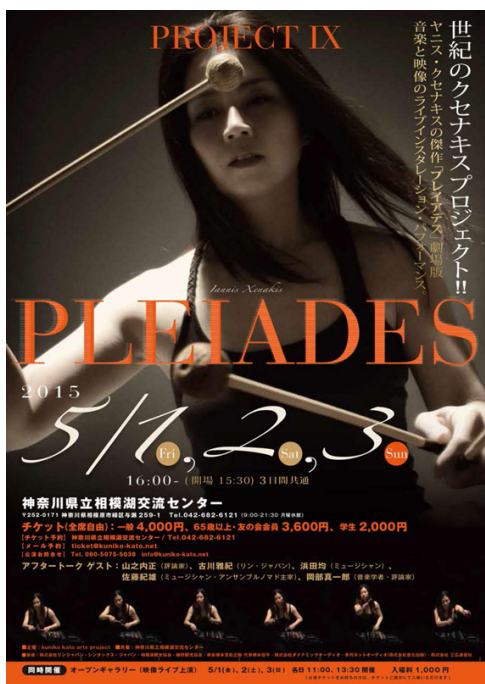
search

FIVE by FIVE 注目の新譜



Concert Report PROJECT IX PLEIADES #816

2015年5月1日 神奈川県立相模湖交流センター
Reported & Photos by 藤原聡 (Satoshi Fujiwara)



<演奏>
加藤訓子 (パーカッション)

<曲目>
クセナキス：プレียดス (1978)
同：ルボンa.b. (1987-89)

NEW 5.31 '15

- FIVE by FIVE :**
- #1207 『All Star Jam Session THE J・MASTERS in Concert』 (ビットインレーベル) 望月由美 | #1208 『明田川莊之/ライヴ・イン・函館「あうん堂ホール」』 (AKETA'S DISK) 望月由美 | #1209 『Samuel Blaser Quartet/Spring Rain』 (Whirlwind Recordings) 伏谷佳代 | #1210 『Christophe Schweizer's Young Rich & Famous/Grand Grace』 (Between the Lines) 伏谷佳代 | #1211 『Tim Berne's Snakeoil/You've Been Watching Me』 (ECM) 多田雅範 | #1212 『Donny McCaslin/Fast Future』 (Greenleaf) 常盤武彦 | #1213 『Joe Fiedler Trio/I'm In』 (Multiphonics Music) 常盤武彦 | #1214 『Marc Cary Rhodes Ahead Vol.2』 (Motéma Music) 常盤武彦 | #1215 『Manuel Valera/Trio Live at Firehouse 12』 (Mavo Records) 常盤武彦 | #1216 『Mikko Innanen with William Parker and Andrew Cyrille/SONG FOR A NEW DECADE』 (TUM Records) 剛田武 | #1217 『Han-earl Park, Catherine Sikora, Nick Didkovsky, Josh Sinton / Anomic Aphasia』 (Slam Production) 剛田武 | #1218 『Weasel Walter & David Buddin/Quodlibet』 (Not On Label) 細田成嗣 | #1219 『ショスタコーヴィチ：交響曲第7番 八長調 Op.60 「レニングラード」』 (PENTATONE CLASSICS) 藤原聡

COLUMN :

連載フォト・エッセイ：Reflection of Music 39 「ウィリアム・パーカー」 横井一江 | 撮っておきの音楽家たち #107 「ロベルト・ホル」 (歌手/バス・バリトン) 林喜代種 | 撮っておきの音楽家たち #108 「佐藤豊彦」 (リユート奏者) 林喜代種 | カンザス

知人に車を出してもらって京王多摩センターから中央自動車道で約50分(意外に近い)。相模湖の文字通り「ほとり」にある相模湖交流センターにてパーカッショニスト加藤訓子がクセナキスの『プレียดス』と『ルボンa.b.』をやるというのでやってきました。

会場のある相模湖交流センターは、外見は何の変哲もないこじんまりとした町役場、といった風情。開演よりかなり前に到着、あらかじめ電話にて予約しておいたチケットを窓口で受け取って左手に進むと、ギャラリイもしくはミーティングルーム的な部屋があり、そこにはマリimba、シロフォン、ヴィブラフォン、さらにはクセナキスが『プレียดス』のために考案した楽器「ジクセン」もある(最初はここで演奏するのか?と訝った)。壁やテーブルにはかなりレアと思われるクセナキスの様々なLPレコードやCDも展示されている(筆者も所有しているアイテムがかなりありました)。最も奥にはLINNのオーディオ装置もセッティング(音は聴いていません)。この部屋には加藤訓子ご本人もいらして関係者の方と談笑されている。しばらく見て回った後に一旦センターを離れる。外で食事と散歩の後開場時刻に舞い戻ってみると、演奏会場は同じ建物の別の場所であった(一安心)。こちらがホールである。相当に暗い会場の中、中央天井からスクリーンが張られ、そこには<PROJECT IX XENAKIS>の文字が投影されているが、これは背後の壁面に透かされて写っており、つまり二重になっている。会場中央には縦に細長いスピーカーが6本セッティングされており、それが取り囲むように様々なパーカッションが設置されている。事前のチラシや案内には、6人のパーカッション奏者が必要な『プレียดス』をどういった形態で聴かせるのかの記載が全くない。加藤がどれかのパートを演奏し、

残りは同じ会場でレコーディングされてLINNレーベルより発売されている同曲のマスター音源を会場に流すのだろうか、などと考えている中に加藤が登場。少し「前説」を行なった後に一旦退場されたのだが、改めて出て来るのだろうかと思っていると前述のスピーカーから凄まじく高音質の『ブレイアデス』が流れ出す。つまりは、加藤が演奏した録音をそれぞれ6本のスピーカーから再生し、そこにサウンドインストレーションと称してアブストラクトなデザインの様相、または合成された6人の加藤の映像が流されるという趣向だった訳だ。その度肝を抜かれるような、体ごと音圧で吹っ飛ばされそうになるような凄まじい音響は、もはや聴くものではなくてその場で「体感」するものと言いたい。微妙に音程や音色の違った楽器が組み合わされることにより、単体としてはそれなりに耳馴染みがあると思っていたそれぞれの楽器が何とも形容し難い不思議な音響世界を現出させる。このような音は聴いたためしが無い。かたて加えてリズムの嵐。最初こそは「ブレイアデスでは加藤さん出ないの？」などと考えていた筆者は曲が進むにつれてそんな考えは木っ端微塵に粉碎させられていた。思えばこのような最高の音響条件で『ブレイアデス』を再生することなんて出来はしない。その意味からもこれは唯一無二の体験であった。

しかし、真の驚きはその後の「ナマ加藤」にあった。『ルボンa.b.』の実演。あれだけ凄まじい音響だと思われた『ブレイアデス』も、加藤のナマ演奏の迫力には及ばない。音の深みと空気を切り裂くような、五臓六腑に染み渡りよう実在感に圧倒的の一語。その正確さにも唖然（曲を知っている・知らないの話ではない。真剣に聴けば誰でもこの恐るべき正確さは理解できてしまう）。勿論高尚な音楽理論や複雑極まりないリズムの変化を駆使して記載されているスコアではあるだろう。非・専門家である筆者などには詳しいことは分らない。しかし、クセナキスの音楽には原初的な興奮がある。これは、例えばあの『ノモス・ガンマ』（先日井上道義&新日本フィルで接した実演!）や『ヘルマ』、『シナファイ』などにも通じる独特の呪術的な何物かだ。それは録音でも知ることではできるが、知るのではなくて「体感」しなくてはならない。それにしても、パーカッションのみで何という豊饒な世界を構築し得たのだろうか、作ったクセナキスも、そして人間業とは思えない正確さ、力強さ、それと矛盾するようだがまるで力みがなくしなやかとすら形容できる演奏を披露した加藤訓子も。筆者は加藤さんの実演は今回が初めてだが、皆さんも是非実演で加藤の演奏に接してみてください。



CONCERT/LIVE REPORT :

- #810「大野和士 東京都交響楽団音楽監督就任記念公演」第786回定期演奏会Bパート 藤原聡 | #811「東京春祭マラカス」コンサートvol.5 《古典派》～現代の音楽家たち～音楽興行師サロモン（没後200年）と作曲家 佐伯ふみ | #812「東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.6 『ニーベルングの指環』全5巻」藤堂清 | #813「ジャズマン・ジャパン・ツアーズ」中村恵介 in 上海 | #814「中村恵介 in 上海」中村恵介 | #815「PROJECT IX PLEIADES」多田 隆 | #816「PROJECT IX PLEIADES」藤原聡 | #817「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 2015 - ASIA」中村恵介と祈りといのちの音楽 | #818「イヴリー・ギトリスの世界」悠雅彦 | #819「ジャン＝クロード・ペヌティエ フォーレ夜想曲全曲」佐伯ふみ | #820「林正樹&西嶋 徹」徳永伸一郎



藤原聡 Satoshi Fujiwara

代官山鳥屋書店の音楽フロアにて主にクラシックCDの仕入れ、販促を担当。クラシック以外ではジャズとボサノヴァを好む。音楽以外では映画、読書、アート全般が好物。休日は可能な限りコンサート、ライブ、映画館や美術館通いにいそむ日々。

JAZZ TOKYO

BACK NUMBER

MONTHLY EDITORIAL 今月の注目

01 悠々自適 / 悠雅彦

Vol.65 : ハバナのゴンサロ・ルバルカバ / 東京でチャーリー・ヘイデンに哀悼を捧げたゴンサロ・ルバルカバ

02 カデンツァ / 丘山万里子

Vol.71 丘山万里子「ドゥダメルと子どもたち」

HOTLINE *JT*

INTERNATIONAL >> | LOCAL >>

JAZZ TOKYO
back number

AFTER HOURS
blog JAZZTOKYO

amazon.co.jp

twitter

Copyright (C) 2004-2015
JAZZTOKYO.
ALL RIGHTS RESERVED.